



DFM Studio

DFM Studio

Inspector 操作マニュアル

2022年 1月

株式会社エリジョン

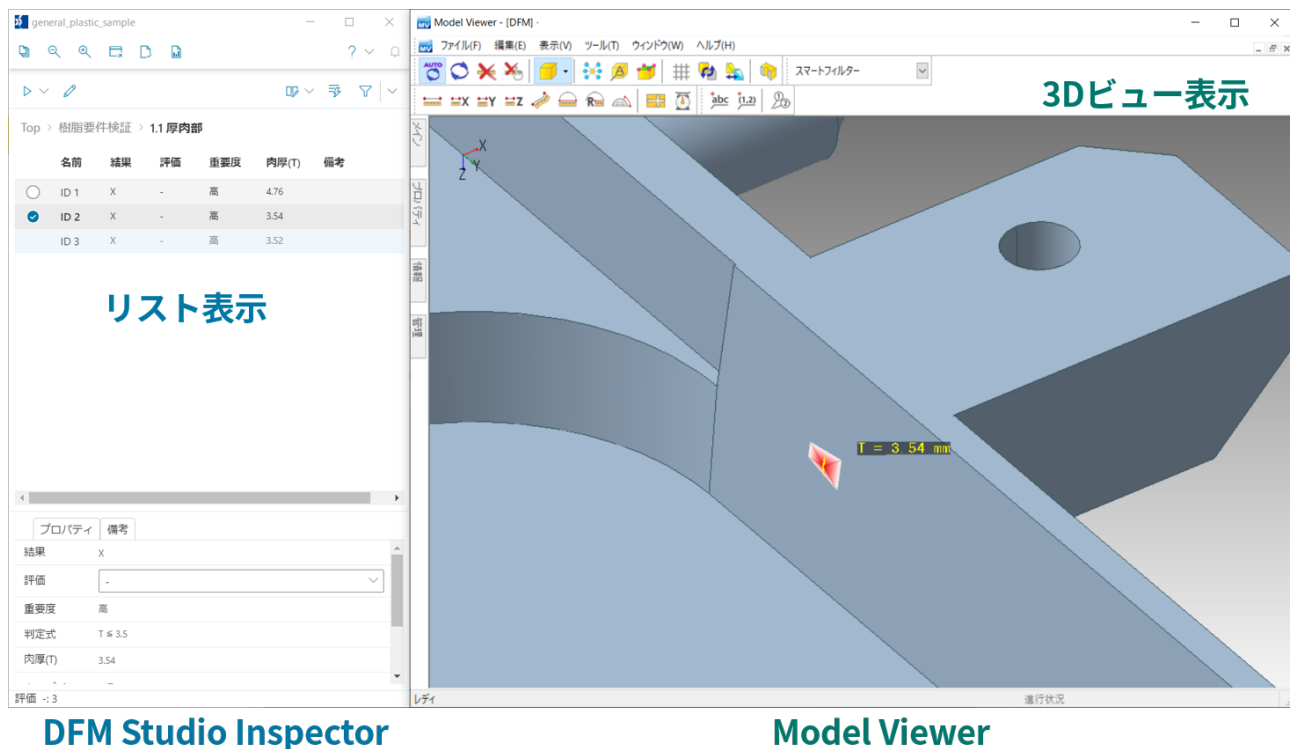
目次

1. DFM Studio Inspectorの概要	1
2. Inspector画面構成	2
3. Inspectorメニュー構成	3
3.1. メニューバー	3
3.2. コマンドバー	4
4. InspectorおよびModel Viewerの起動	5
5. 検証結果(.far)を開く	8
6. ファイルの情報を確認する	10
7. 検証結果の概要を確認する	12
7.1. 適合、不適合、未確認の状態を確認する	12
7.2. 検証パラメーターを確認する	12
7.3. 検証項目の内容を確認する	13
8. 検証結果の詳細を確認する	14
8.1. 検証箇所の詳細情報の確認	16
8.2. 3Dビューの表示状態の変更	17
8.3. 3Dビューの要素選択から結果を確認	18
8.4. 複数の検証結果を一括で確認できるケース	19
8.5. 結果が複数階層にまたがるケース	20
9. 確認する箇所を絞り込む	21
10. 検討、判断の記録を残す	23
11. 検証結果(.far)を保存する	25
12. 再検証を実行する	26
13. レポートを作成する	28
14. Model Viewer機能	32
14.1. パネル	32
14.2. 表示状態の変更	33
14.3. 回転中心の指定	33
14.4. ピックフィルター	34
14.5. 表示/非表示切替	34
14.6. 元CAD色表示	35
14.7. 距離計測	35
14.8. 肉厚計測(パート全体)	35
14.9. 肉厚計測 (個別指定)	38

14.10. 表示コンフィグ設定	39
15. Config設定.....	40

1. DFM Studio Inspectorの概要

DFM Studio Inspector (以下、Inspectorと呼ぶ)は、DFM Studio Checkerを利用して作成された検証結果ファイル(.far)を確認するためのアプリケーションです。Inspectorは、検証結果を3Dモデル上で表示するModel Viewerと相互に連携することで、検証結果を確認するための柔軟性に富んだパワフルな環境を提供します。Inspectorは検証結果を高速にリスト表示し、ソートやフィルタリング機能を用いることで優先的に確認すべき箇所を絞り込むことができます。また、Inspectorで指定した検証箇所は、Model Viewer上の3Dビューで確認することが可能です。Model Viewerは、ハイライト表示、周辺表示、断面表示など様々なビュー状態を簡単に切り替えることができ、検証箇所に対する分析を容易にします。



更にInspectorは、検証結果に対する評価、キャプチャー、コメントを記録することができます。Inspectorを利用して確認した検証結果は、設計基準が守られているか確認したことのエビデンスや設計変更の検討材料として利用することができます。

本ドキュメントでは、Inspector および Model Viewerの操作方法、機能を説明します。

2. Inspector画面構成



箇所	名前	用途
A	タイトルバー	読み込んでいる検証結果のファイル名を表示します。
B	メニューバー	Inspectorまたは検証結果に対する操作を行います。
C	コマンドバー	アイテムリストに対する操作を行います。
D	階層ナビゲーター	現在のアイテムリストの階層位置を表示します。
E	アイテムリスト	アイテム (検証項目、検証箇所 等) をリスト表示します。
F	プロパティリスト	選択されたアイテムの詳細情報を表示します。
G	ステータスバー	アイテムリストの統計情報を表示します。

3. Inspectorメニュー構成

3.1. メニューバー

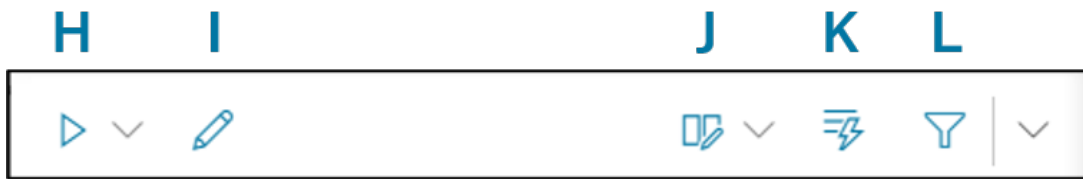
Inspector上部のメニューバーについて説明します。



箇所	名前	用途
A	[ファイル]	ファイル操作を行います。
B	[ズームアウト]/ [ズームイン]	Inspectorの表示サイズを変更します。
C	[Model Viewer 起動]	Model Viewerを起動します。
D	[再検証]	再検証を実行するために、シナリオ実行ダイアログを起動します。
E	[レポート出力]	レポート出力を実行するために、シナリオ実行ダイアログを起動します。
F	[ヘルプ]> [操作マニュアル]	操作マニュアルを表示します。
F	[ヘルプ]> [ライセンスについて]	ライセンス規約を表示します。
F	[ヘルプ]> [DFM Studio Inspectorについて]	バージョン情報を表示します。
G	[通知]	エラー情報を表示します。

3.2. コマンドバー

メニューバー直下のコマンドバーについて説明します。



箇所	名前	用途
H	[ビュー操作]	Model Viewerに対してビュー状態の変更を行います。
I	[編集]	評価や備考などのプロパティを編集または一括編集します。
J	[列の表示/非表示]	アイテムリストに表示するプロパティを変更します。
K	[ビュー操作の割当て]	選択およびダブルクリック時のビュー操作内容を変更します。
L	[フィルター]	アイテムリストをフィルタリングします。

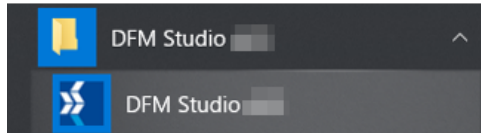
4. InspectorおよびModel Viewerの起動

1. Inspectorを起動する方法には次の4種類があります。

インストール時に作成されたショートカットから起動する。

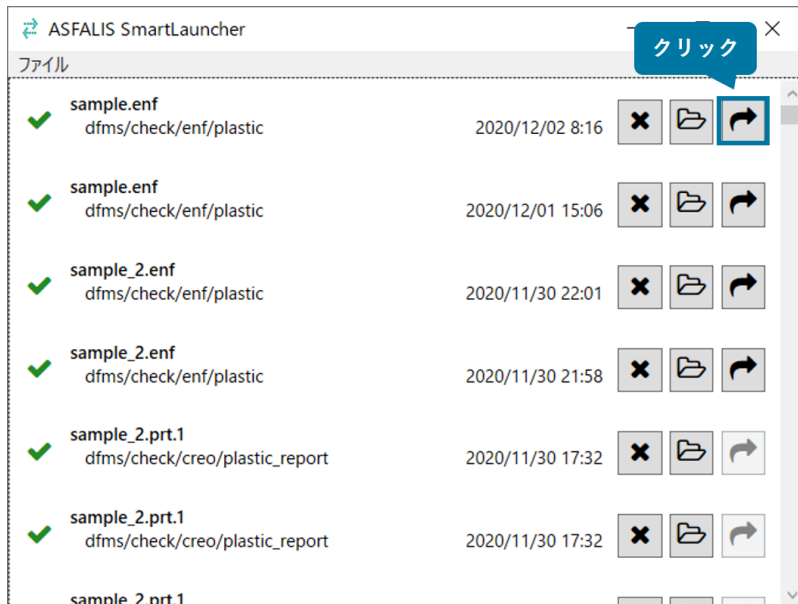


Windowsのスタートメニューから起動する。



ASFALIS SmartLauncherの変換リストから起動する。

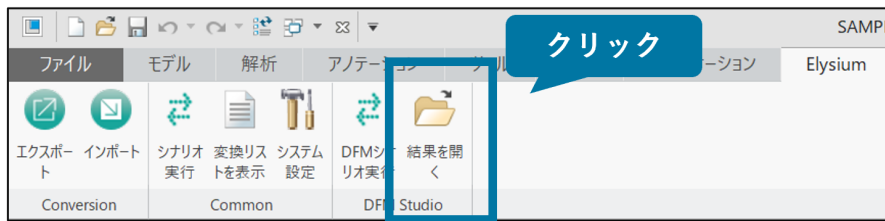
- Inspectorが起動していない場合、 矢印ボタンを押すと Inspectorが起動します。



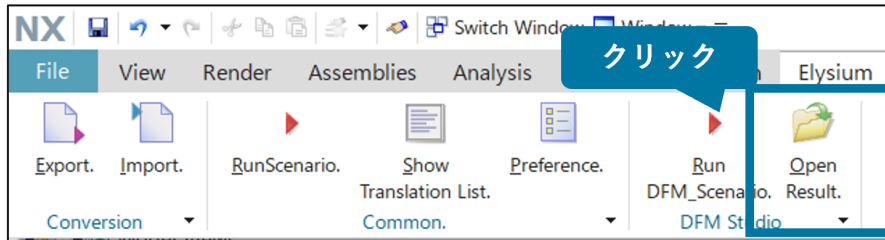
ASFALIS SmartLauncherのCADプラグインメニューから起動する。

- Inspectorが起動していない場合「結果を開く」または「Open Result」から検証結果を読み込むと Inspectorが起動します。

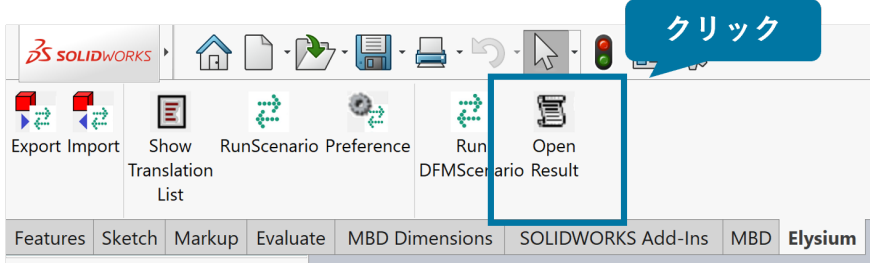
Creo



NX



SOLIDWORKS



。対応しているCADは、下記の通りです。

- Creo Parametric
- NX
- SOLIDWORKS



ASFALIS SmartLauncherのCADプラグインメニューから起動するためには、CAD Connectorのライセンスが必要です。

2. Inspectorが起動すると、同時にModel Viewerを起動するダイアログが表示されます。Model Viewerを開く際には、「はい」を選択します。

Inspectorのメニューバーの「Model Viewer 起動」からModel Viewerを起動することもできます。



クリック



Model Viewer は Inspectorと横並びに連結して表示されます。2つのアプリケーションを切り離すことはできません。

5. 検証結果(.far)を開く

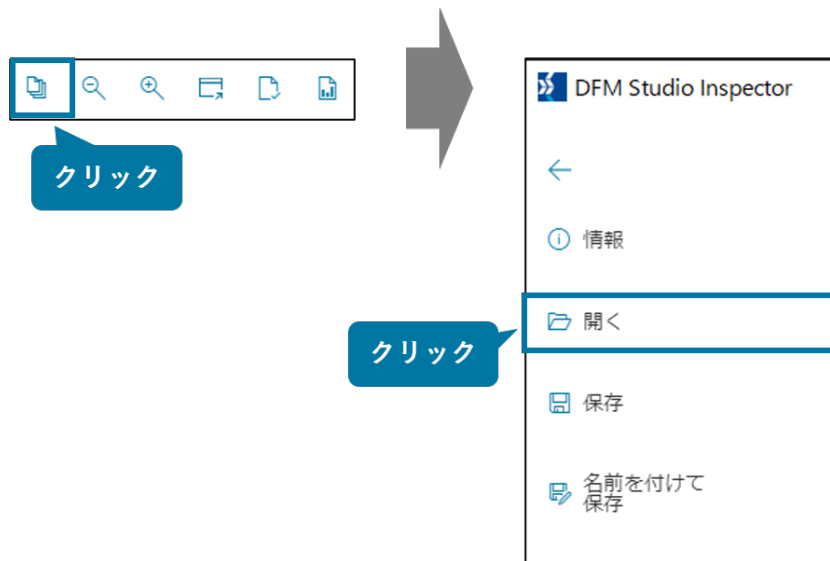
1. 検証結果を開く方法には次の4種類があります。

Inspectorまたは**Model Viewer**に検証結果をドラッグ&ドロップする。



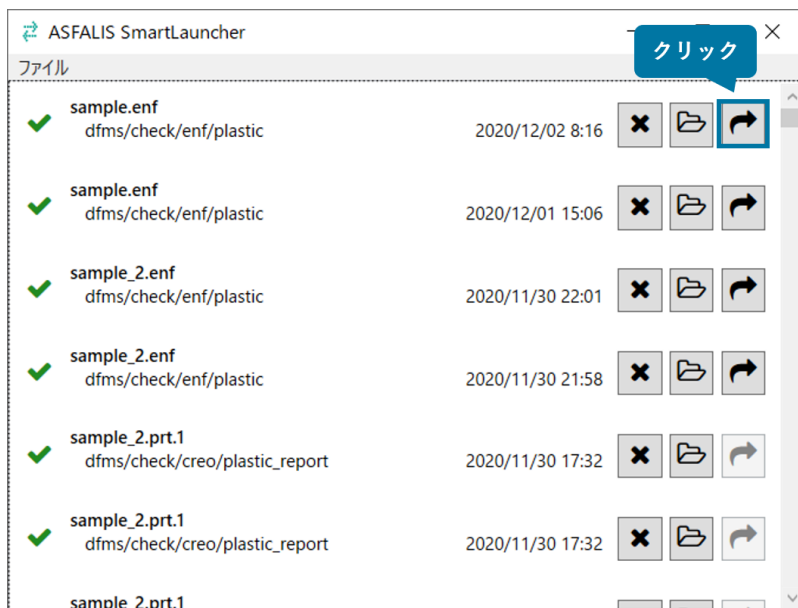
(Model Viewerにドラッグ&ドロップする場合は、InspectorからModel Viewerが起動されている必要があります)

Inspectorのメニューバーにある「ファイル」から開く。



ASFALIS SmartLauncherの変換リストから開く。

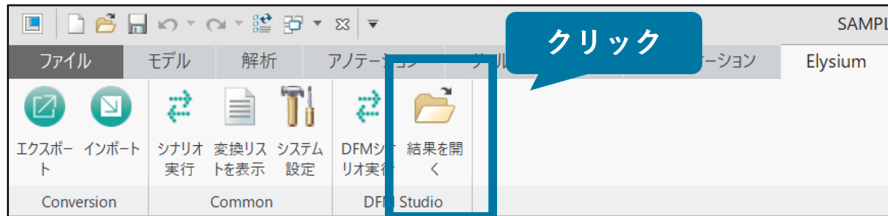
- 矢印ボタンを押すと、Inspectorに検証結果が読み込まれます。
- Inspectorが起動していない場合は、自動でInspectorが起動されます。



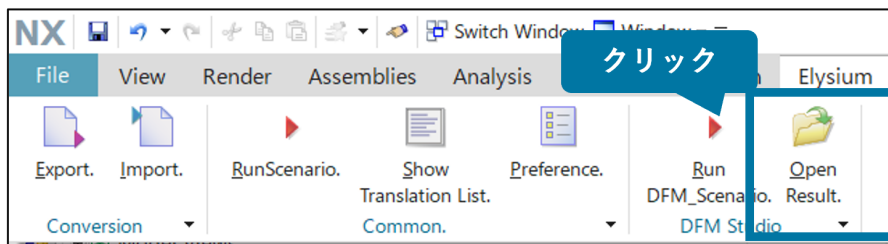
ASFALIS SmartLauncherのCADプラグインメニューから開く。

- 。「結果を開く」または「Open Result」から検証結果を読み込むと、Inspectorに検証結果が読み込まれます。

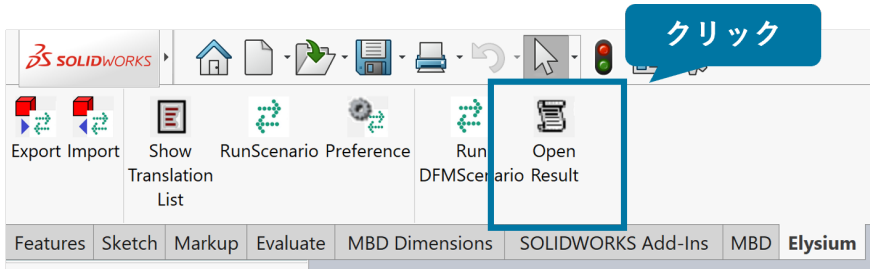
Creo



NX



SOLIDWORKS



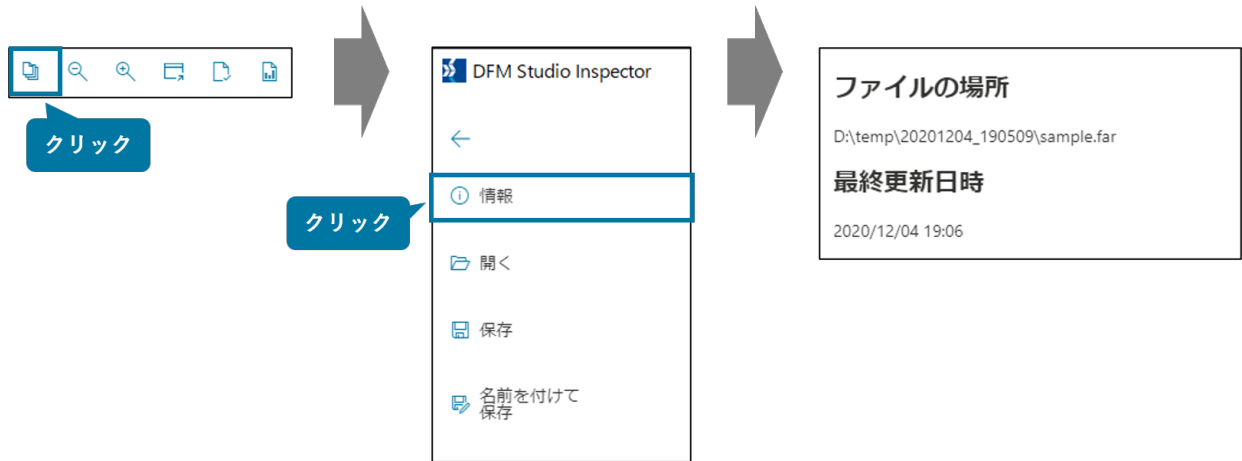
- 。Inspectorが起動していない場合は、自動でInspectorが起動します。
- 。CADプラグインメニューから検証結果を開いた場合、CAD上の3DモデルとModel Viewerの3Dモデルを連動させることができます。連動方法の詳細については、「[\[anchor-7\]](#)」をご参照ください。
- 。対応しているCADは、下記の通りです。
 - Creo Parametric
 - NX
 - SOLIDWORKS



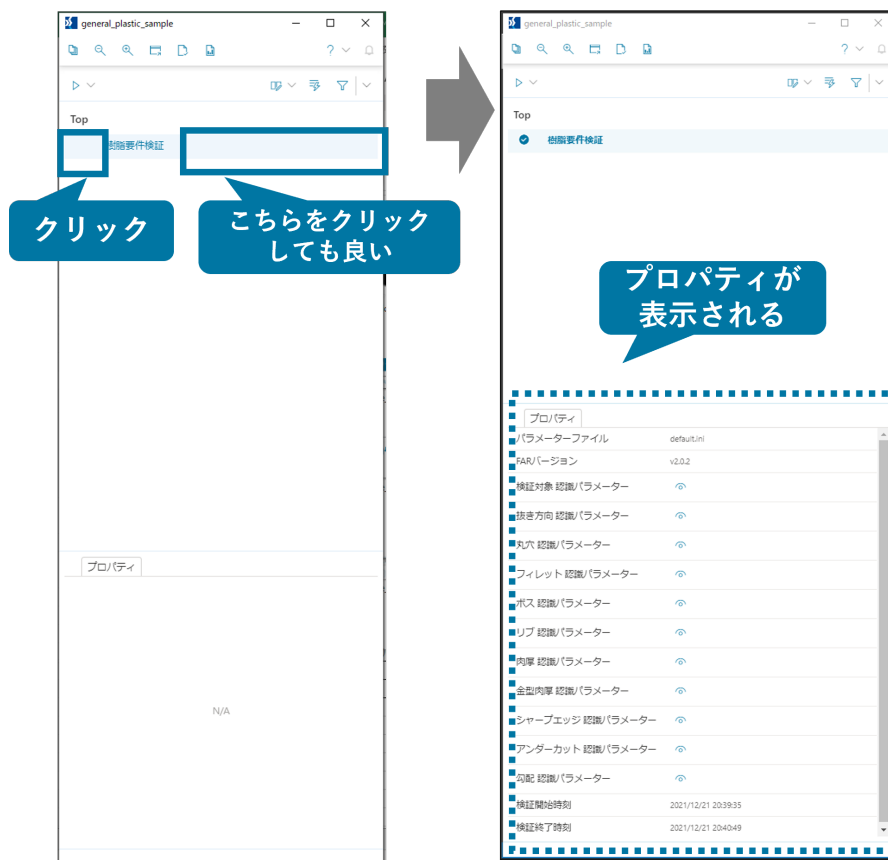
ASFALIS SmartLauncherのCADプラグインメニューから検証結果を開くには、CAD Connectorのライセンスが必要です。

6. ファイルの情報を確認する

- Inspectorのメニューバーにある「ファイル」から、ファイルの場所および最終更新日時を確認することができます。



- アイテムリストのTopの階層で、検証結果のバージョン情報(FARバージョン)、検証開始/終了時刻、各検証項目で共通のパラメーター設定を項目ごとに確認することができます。
 - アイテム横の ☐ チェックボックスを押すことで、アイテムが選択状態になり、プロパティが表示されます。



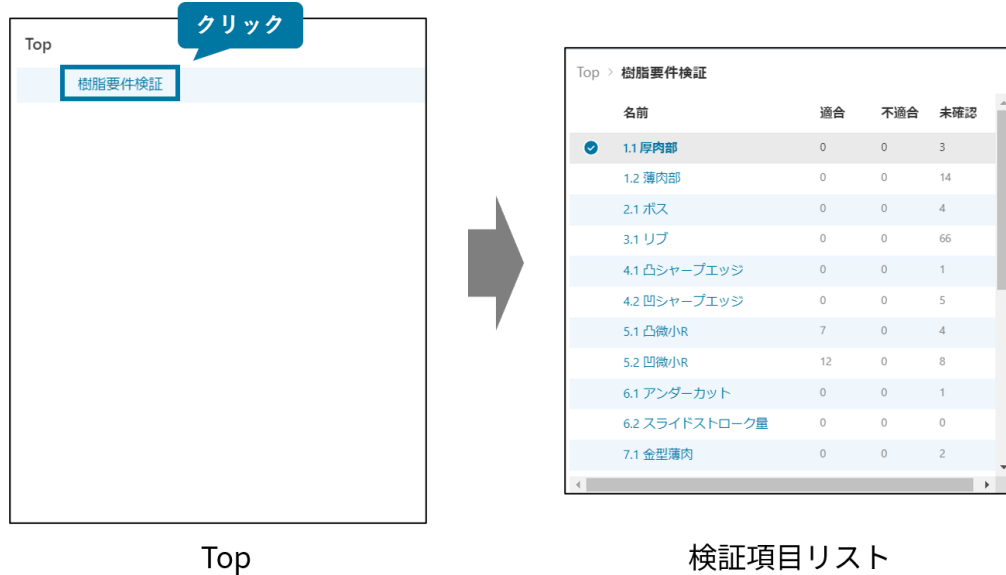
- 検証パラメーターの 👁 表示アイコンを押すことで、各検証項目で共通のパラメーター設定が表示されます。



7. 検証結果の概要を確認する

1. 検証結果の概要は、アイテムリストに検証項目の一覧を表示して確認することができます。この一覧を「検証項目リスト」と呼びます。

- ・アイテムリストから結果を確認したい検証を選択することで、アイテムリストが検証項目リストの階層に移動します。

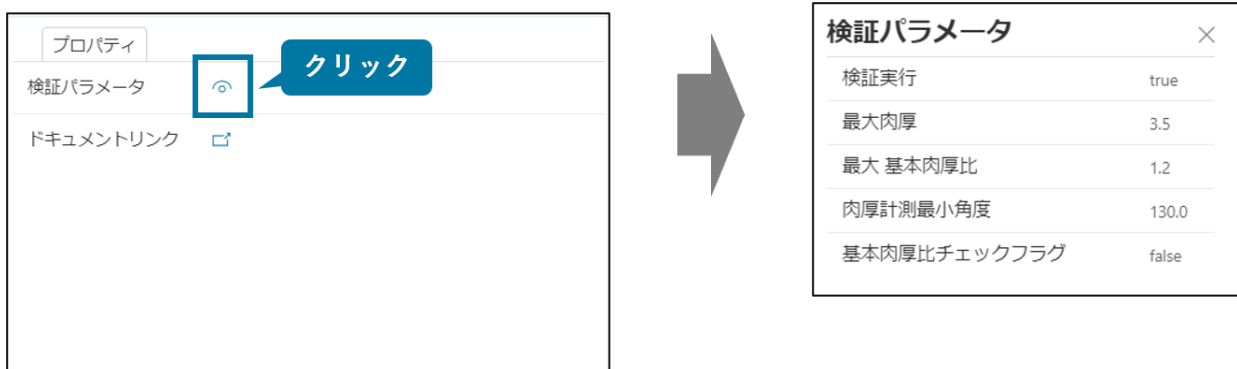


7.1. 適合、不適合、未確認の状態を確認する


- ・検証結果はアイテムリストに表示されます。
自動検証の結果、合格と判定されたものは"適合"、不合格と判定されたものは"未確認"として計数されます。
- ・評価のプロパティを変更すると、"適合"、"不適合"、"未確認"の件数は追従します。

7.2. 検証パラメーターを確認する

- ・プロパティリストにある検証パラメーターの  表示ボタンを押すと、表示している検証項目に関するパラメーター設定が表示されます。



7.3. 検証項目の内容を確認する

- プロパティリストに検証内容のボタンがある場合、検証内容の  表示ボタンを押すと、該当する検証項目の検証内容を画像で確認することができます。
- また、検証項目の詳細については検証項目ガイドからご確認ください。すべてのバージョンの検証項目ガイドは、カスタマーページから取得可能です。詳しくは管理者にお問合せください。

Top > 樹脂要件検証

名前	適合	不適合	未確認
✓ 1.1 厚肉部	0	0	29
1.2 薄肉部	0	0	14
2.1 ボス	0	0	11
3.1 リブ	0	0	66
4.1 製品シャープエッジ	0	0	1
4.2 金型シャープエッジ	0	0	5
5.1 製品微小R	7	0	4

プロパティ

検証パラメーター 

検証内容 

クリック

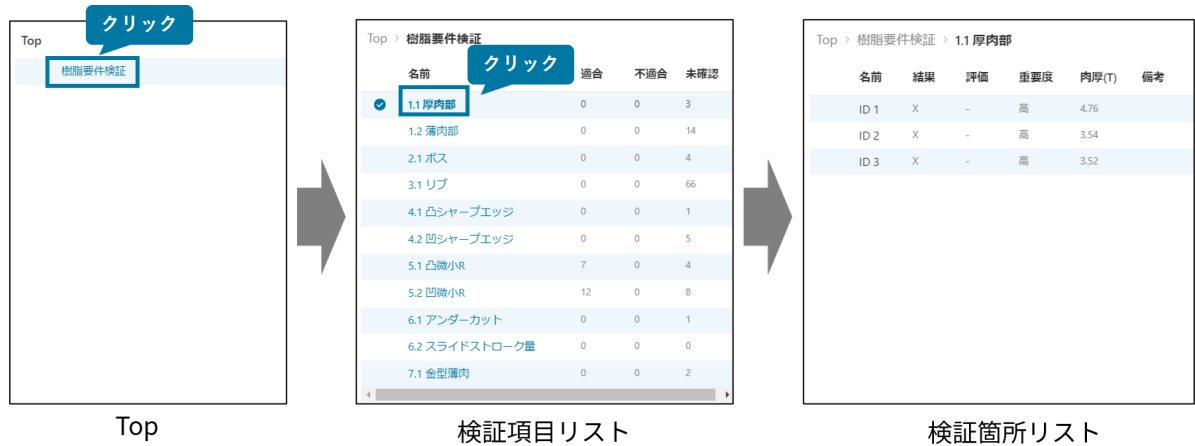


ABS : $1.1\text{mm} \leq T \leq 3.5\text{mm}$

8. 検証結果の詳細を確認する

1. 検証結果の詳細は、アイテムリストに検証箇所の一覧を表示して確認することができます。この一覧を「検証箇所リスト」と呼びます。

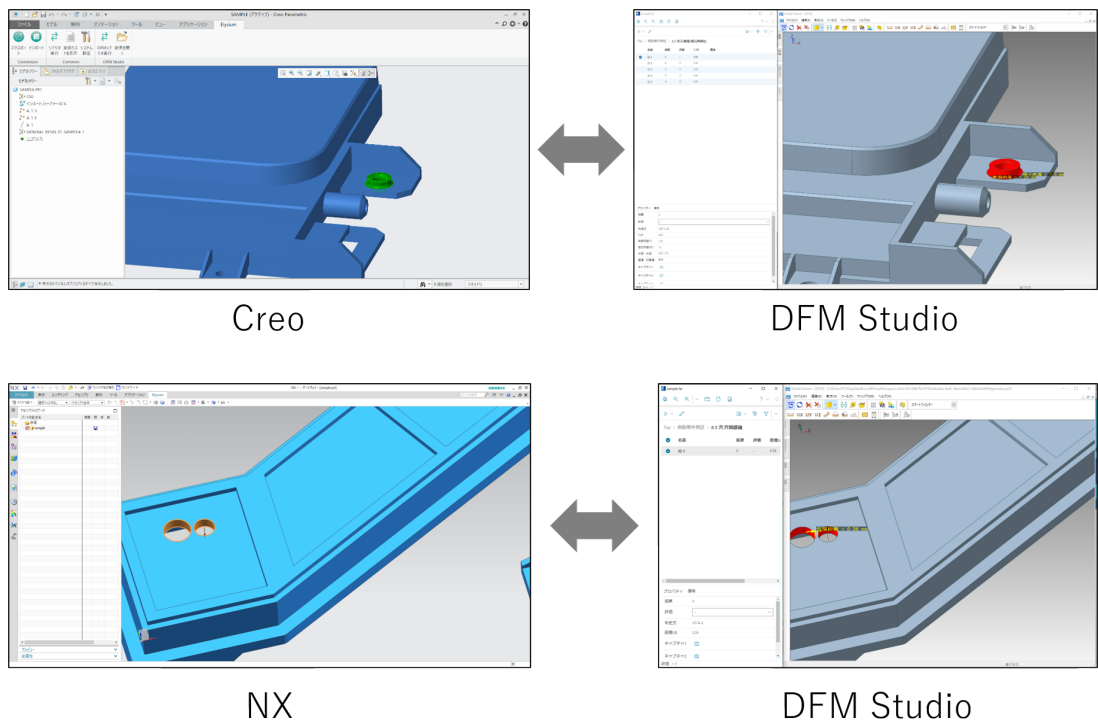
- アイテムリストから確認したい検証、検証項目を順次選択することで、検証箇所リストの階層に移動します。

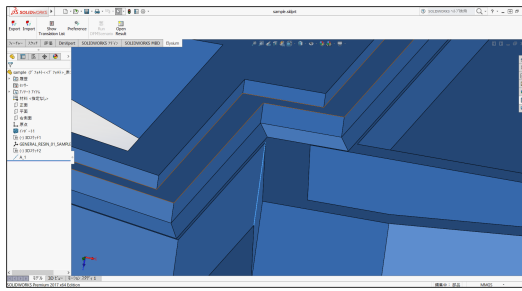


2. 検証箇所リストから各アイテム (検証箇所) を選択することで、該当箇所の詳細を確認することができます。

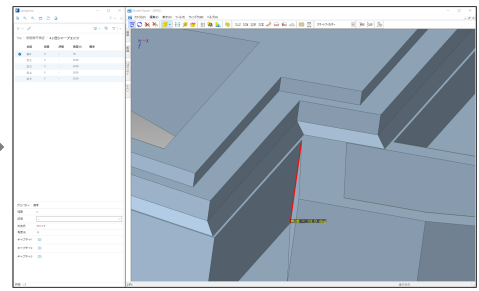
- ASFALIS Smart LauncherのCADプラグインメニューから検証結果を開いた場合、CAD上の3DモデルとModel Viewerの3Dモデルが連動します。

- 連動する内容
 - ビューの視点情報とパート、フェース、エッジ、頂点のハイライトです。





SOLIDWORKS



DFM Studio

- Model Viewer上の3DモデルとCAD上のモデルが連動するのは以下の場合です。

[Model Viewerで単体部品を開いている場合]

- CADで検証結果(.far)の部品名と同名の単体部品を開いている時
- CADで検証結果(.far)の部品の親アセンブリーを開き、検証結果の部品をアクティブにしている時（NXの場合は作業パート）

[Model Viewerでアセンブリーを開いている場合]

- CADで検証結果(.far)と同じアセンブリー名のモデルを開いており、トップアセンブリーがアクティブの時

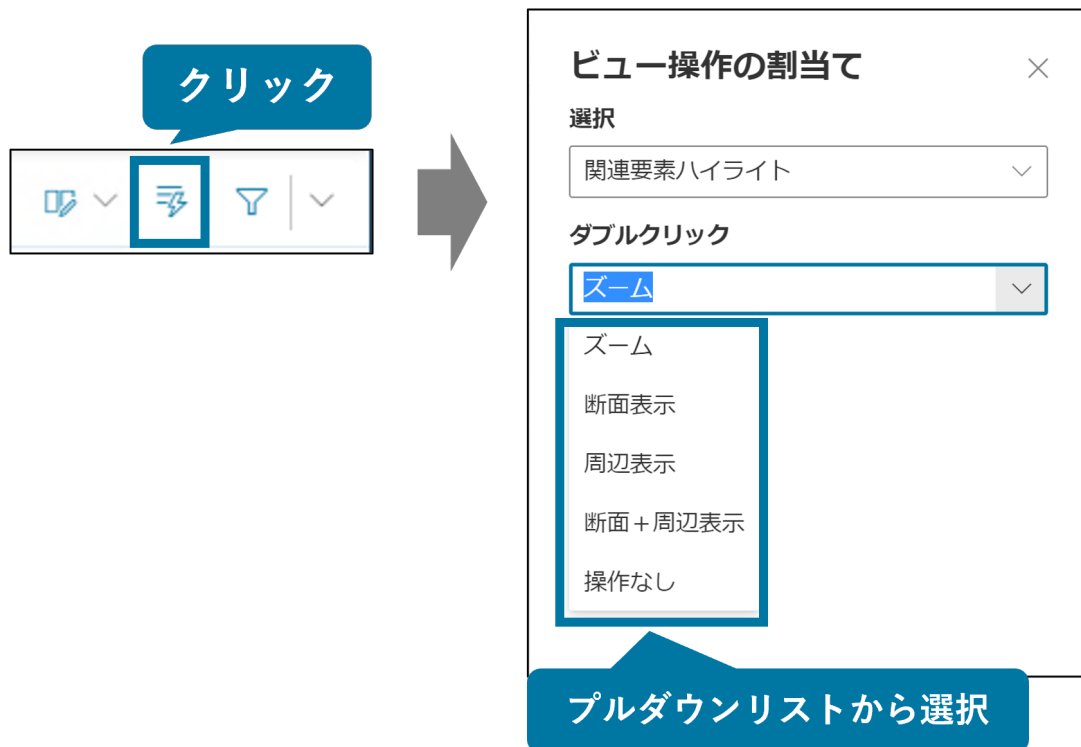
8.1. 検証箇所の詳細情報の確認

- 検証箇所の詳細情報はプロパティリストに表示されます。
各検証項目に表示されるプロパティの種類は「DFM_Studio_CheckItem_Guide_Plastic/Sheet-metal_ja.pdf」をご参照ください。
- プロパティの情報をアイテムリストに表示することができます。
 - コマンドバーの「列の表示/非表示」から、アイテムリストに表示するプロパティを追加、削除することができます。

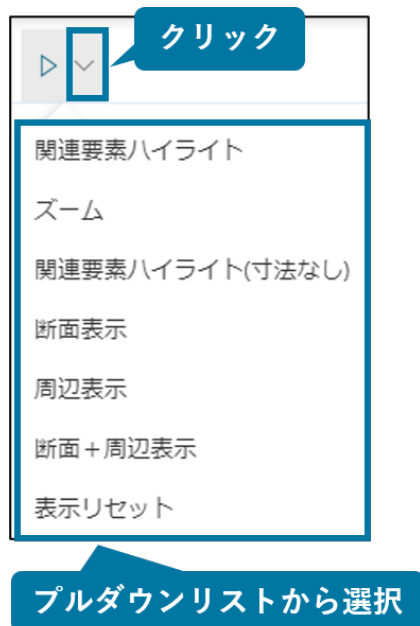


8.2. 3Dビューの表示状態の変更

- Inspectorから3Dビューの表示状態を変更する方法には次の3種類があります。
 - アイテムを選択した時およびダブルクリックした時に表示状態が変わります。この際、どのように表示状態を変更するかは、コマンドバーの「ビュー操作の割当て」から変更することができます。
 - 「操作なし」を選択すると、選択やダブルクリックでビュー操作が行われません。



- コマンドバーにある「ビュー操作」を実行すると表示状態が変わります。



- アイテムを選択した状態で右クリックするとコンテキストメニューが開きます。アイテムを選

択した状態で右クリックするとコンテキストメニューが開きます。このコンテキストメニューでビュー操作を選択すると表示状態が変わります。

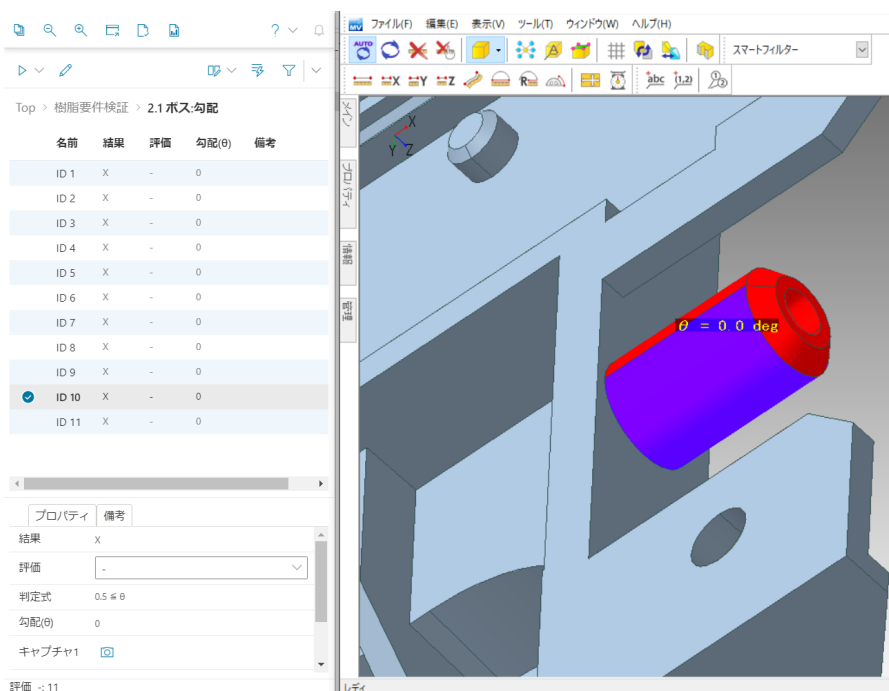


ここで選択した表示状態は、他のアイテムを選択するとキャンセルされ初期状態に戻ります。



8.3. 3Dビューの要素選択から結果を確認

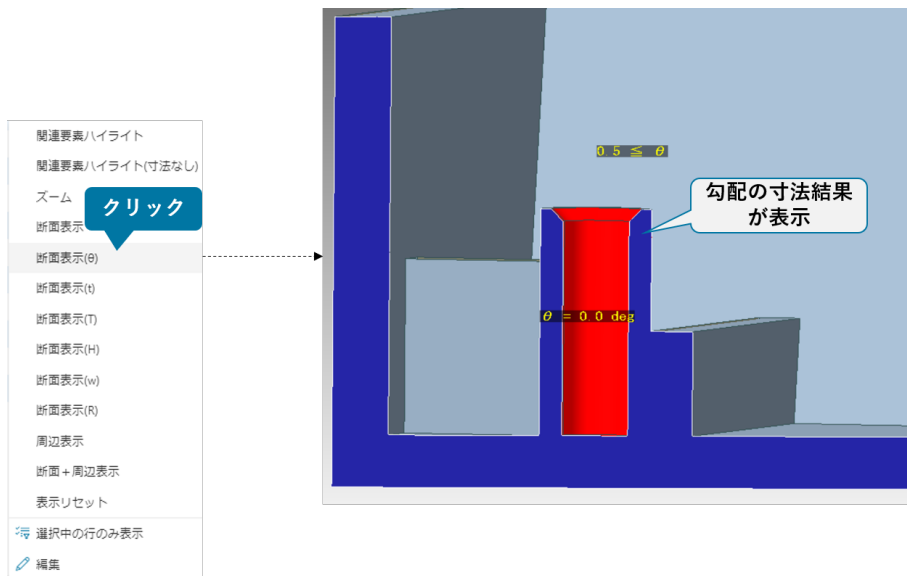
3Dビューの関連要素を選択して、該当要素に関連する検証結果をInspectorにて確認することが可能です。



- 各検証項目の検証箇所リストに入った状態で、3Dビュー上のフェースやエッジを選択すると選択された要素に関連するアイテムリストの対応する行が選択されます（逆ハイライトと呼びます）。
 - 逆ハイライトの効果的な使い方については9, [確認する箇所を絞り込む](#)にて説明します。

8.4. 複数の検証結果を一括で確認できるケース

- Inspectorでは、複数の検証結果を一括で確認できる機能があります。
以前のバージョンでは複数項目にまたがっていたフィーチャー（ボスやリブなど）の複数個所の寸法計測結果と判定式をもとにしたOK/NG判定結果をそれぞれ表示し、総合結果を評価することで、ボスやリブなどのフィーチャー単位でのOK/NG判定を行うことが可能です。
総合結果が結果列に表示され、1項目でもNG結果があれば、総合結果もNGとなります。
- アイテムを選択した状態で右クリックして表示されるコンテキストメニューの「断面表示」を選択すると、計測結果や判定式の寸法が表示されない断面表示となり、「断面表示(項目)」を選択すると、その項目の寸法と判定式が3Dビュー上の断面表示とともに表示されます。
 - 例えば、樹脂部品の検証項目である、「ボス検証」や「リブ検証」では、各ボスやリブにかかわる複数の項目を一括で確認することができます。検証項目の詳細については、「DFM_Studio_CheckItem_Guide_Plastic_ja.pdf」を参照ください。



8.5. 結果が複数階層にまたがるケース

- Inspectorでは、結果を複数階層にまたがって確認できる機能があります。概要の結果と詳細の結果を順に追って確認することができます。
 - 例えば、樹脂部品の検証項目である、「抜き勾配」については、指定された各抜き方向に対し、検証結果概要（OK／NG箇所の総数）が表示され、下の階層の検証箇所リストで次項の図のように詳細結果を確認することができます。
 - 「CheckEachErrorArea.Flag」のパラメーターをtrueに変更（デフォルトはfalse）することで、詳細結果を確認することができます。
- 結果の表示仕様や閾値設定など詳細は「DFM_Studio_CheckItem_Guide_Plastic_ja.pdf」をご参照ください。

Top > 樹脂要件検証 > 9.1 抜き勾配

名前	結果	評価	抜き方向	備考
ID 1	X	-	キャビティ方向	
ID 2			コア方向	
ID 3			スライド方向	
ID 4	X	-	スライド方向	
ID 5	X	-	スライド方向	
ID 6	X	-	スライド方向	

プロパティ 備考

結果 X

評価 -

抜き方向 キャビティ方向

閾値1:水色(OK) -90.0 <= angle < 0.0

フェース数 130

閾値2:赤色(NG) 0.0 <= angle < 1.0

フェース数 271

閾値3:ピンク色(OK) 1.0 <= angle < 2.0

フェース数 0

閾値4:黄色(OK) 2.0 <= angle < 3.0

フェース数 0

閾値5:緑色(OK) 3.0 <= angle < 90

フェース数 51

Top > 樹脂要件検証 > 9.1 抜き勾配 > ID 1

名前	結果	評価	閾値	備考
ID 45	X	-	0.0 <= angle < 1.0	
ID 46	X	-	0.0 <= angle < 1.0	
ID 47	X	-		
ID 48	X	-		
ID 49	X	-		
ID 50	X	-		
ID 51	X	-	0.0 <= angle < 1.0	
ID 52	X	-	0.0 <= angle < 1.0	
ID 53	X	-	0.0 <= angle < 1.0	
ID 54	O	O	-90.0 <= angle < 0.0	
ID 55	O	O	1.0 <= angle < 2.0	
ID 56	O	O	2.0 <= angle < 3.0	
ID 57	O	O	3.0 <= angle < 90	

プロパティ 備考

結果 X

評価 -

抜き方向 キャビティ方向

閾値 0.0 <= angle < 1.0

キャプチャ1

キャプチャ2

キャプチャ3


9. 確認する箇所を絞り込む

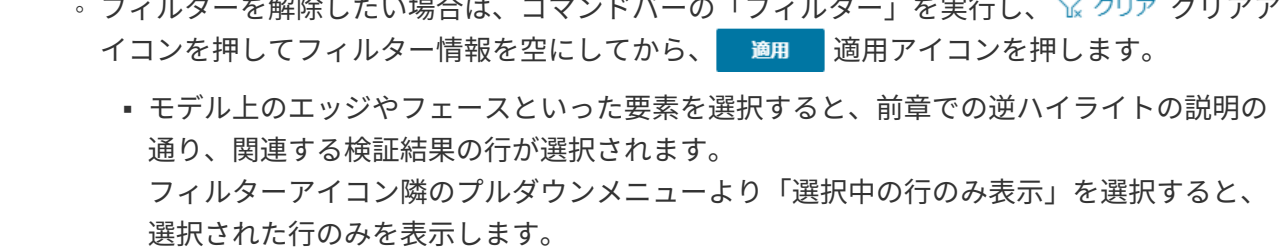
- アイテムリストの各列は、列タイトルをクリックすることでソートすることができます。
 - ソートされた列は、降順であれば ↓ 下向きの矢印が、昇順であれば ↑ 上向きの矢印が列タイトルに表示されます。

Top > 樹脂要件検証 > 1.2 薄肉部

クリック

名前	結果	評価	重要度	肉厚(T) ↓	備考
ID 14	X	-	高	1.07	
ID 13	X	-	高	1	
ID 12	X	-	高	0.8	
ID 11	X	-	高	0.8	
ID 10	X	-	高	0.8	
ID 9	X	-	高	0.8	
ID 8	X	-	高	0.8	
ID 7	X	-	高	0.8	
ID 6	X	-	高	0.8	
ID 5	X	-	高	0.8	
ID 4	X	-	高	0.65	
ID 3	X	-	高	0.65	

- アイテムリストは、コマンドバーの「フィルター」を実行してフィルタリングすることができます。
 - アイテムリストがフィルタリングされている場合は、コマンドバーのフィルターアイコン  の背景色が変わります。
 - 評価などのリストのフィルタリングだけでなく、高さが指定値以下のものをフィルタリングする、キャプチャーが取得されているものだけをフィルタリングする、備考欄が記入されているものだけをフィルタリングするといったことができます。



10. 検討、判断の記録を残す

- プロパティリストの"評価"プロパティで、該当箇所に対する合否判定を記録することができます。
 - "○"は適合、"×"は不適合、"- "は未確認であることを表します。
 検証の結果が適合の場合は"○"、不適合の場合は"- "が評価の初期値として入ります。
 - 各検証結果を確認の上、不適合の場合は"- "を"×"に"評価"プロパティで変更します。

プロパティ	備考
結果	X
評価	-
重要度	○
判定式	X
肉厚(T)	-
キャプチャー1	
キャプチャー2	

- "評価"プロパティの値を変更すると、ステータスバーが更新されます。

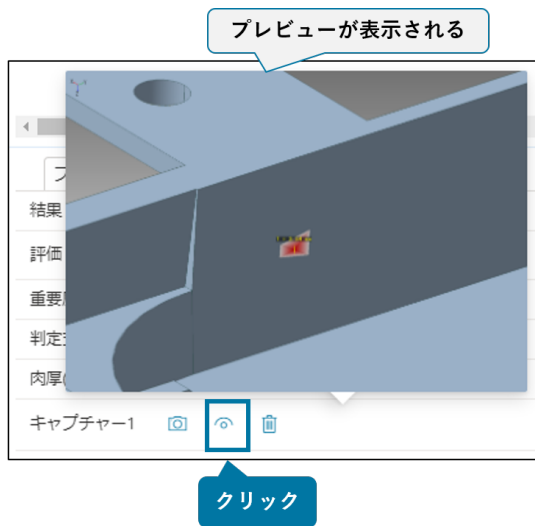
プロパティ	備考
結果	X
評価	-
重要度	高
判定式	$T \leq 3.5$
肉厚(T)	4.76
キャプチャー1	

評価 - : 3

プロパティ	備考
結果	X
評価	○
重要度	高
判定式	$T \leq 3.5$
肉厚(T)	4.76
キャプチャー1	

評価 ○ : 1 - 2

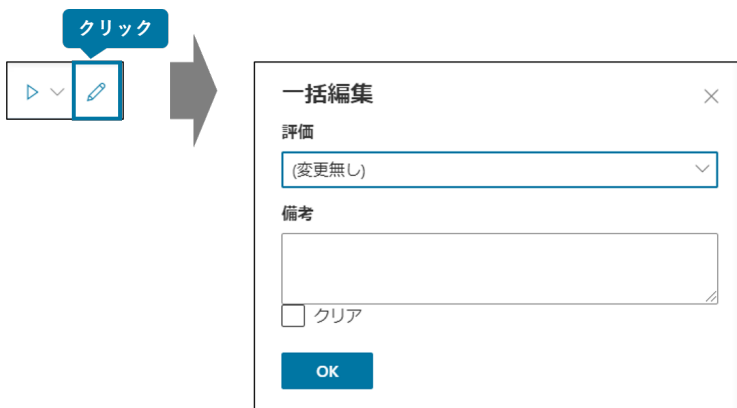
- プロパティリストの"キャプチャー"プロパティで、該当箇所の3Dビューを記録することができます。
 - スクリーンショットボタンを押すことで、キャプチャーを撮ることができます。
 - 取得したキャプチャーは、 表示ボタンを押すことでプレビュー、 削除ボタンを押すことで削除することができます。なおキャプチャーを撮り直したい場合は、再度 スクリーンショットボタンを押します。



- プロパティリストの"備考"プロパティで、コメントを記録することができます。



- 評価や備考は複数のアイテムを選択してコマンドバーの「編集」を選択することで、値を一括編集することができます。



InspectorからModel Viewerが起動されていないとキャプチャーを撮ることができません。

11. 検証結果(.far)を保存する

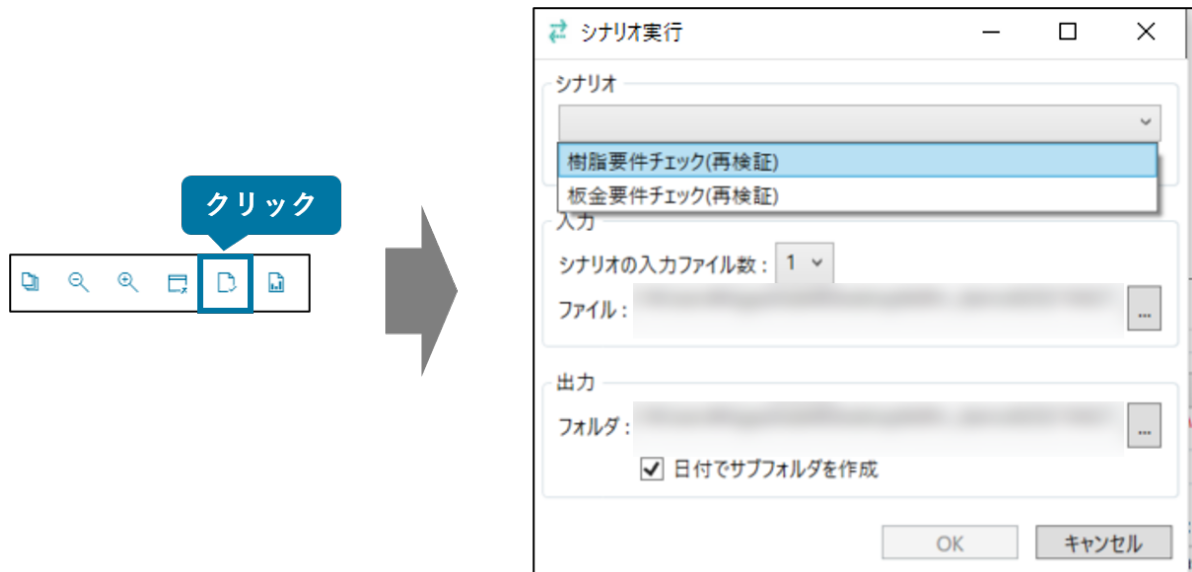
メニューバーの「ファイル」から検証結果を保存または名前を付けて保存することができます。



12. 再検証を実行する


Inspectorに読み込んでいるモデルに対して、パラメーターを変更して再検証を行うことができます。手順は以下の通りです。


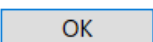
1. メニューバーの「再検証」を選択し、ASFALIS SmartLauncherのシナリオ実行ダイアログを起動します。
 - 入力データはInspectorに読み込んでいる検証結果(.far)が自動で設定されます。



- なお検証結果が編集されている場合は、保存するよう促されます。
2. シナリオを選択します。
 3. パラメーターを選択します。
 - インストール時は「default」パラメーターのみ指定できます。
 - システム管理者によって予め再検証パラメーターが設定されているシナリオフォルダーを指定している場合は、設定されたパラメーターがプルダウンリストに表示されます。



 鍵マークが付いているパラメーターは管理者によって設定されているため編集することができません。パラメーター設定ツールを使って別名で保存することで、目的に合わせて編集した個人用のパラメーターを使用することができます。

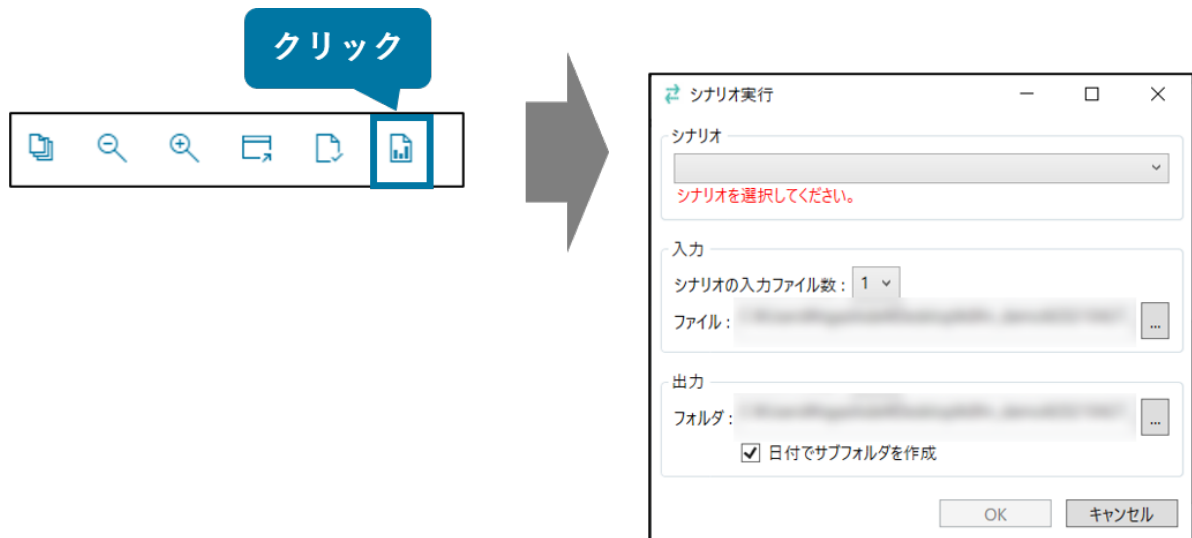
- 選択したパラメーターの詳細を確認したい場合、またはパラメーターを変更したい場合は、 ギアボタンを押してパラメーター設定ツールを起動します。
4. 出力先を指定します。
 5.  OKボタンを押します。再検証のシナリオが実行されます。
 6. シナリオ実行が完了したら、ASFALIS SmartLauncherの変換リストから該当ジョブを選択

し、 矢印ボタンを押します。Inspectorに再検証結果が読み込まれます。

13. レポートを作成する

検証結果の情報をエクセル形式のレポートとして出力することができます。


1. メニューバーの「レポート出力」を選択し、ASFALIS SmartLauncherのシナリオ実行ダイアログを起動します。
 - 。入力データはInspectorに読み込んでいる検証結果(.far)が自動で設定されます。




- 。なお検証結果が編集されている場合は、保存するよう促されます。

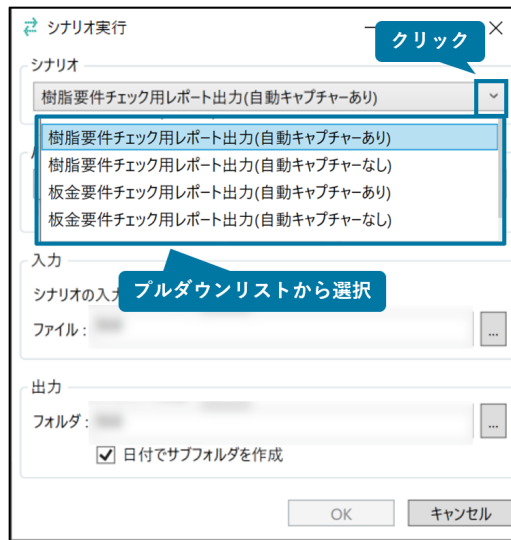
2. シナリオを選択します。

「樹脂要件チェックレポート出力（自動キャプチャーなし）」／「板金要件チェックレポート出力（自動キャプチャーなし）」シナリオ

- 。樹脂要件チェック結果、もしくは板金要件チェック結果のうち、ユーザーがスクリーンショットボタン  で取得したキャプチャーのみがレポートに出力されます。

「樹脂要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーあり）」／「板金要件チェックレポート出力（自動キャプチャーあり）」シナリオ


- 。樹脂要件チェック結果、もしくは板金要件チェック結果のうち、ユーザーがスクリーンショットボタン  で取得したキャプチャーに加えて、全体画像および詳細画像のキャプチャーが自動で取得されます。




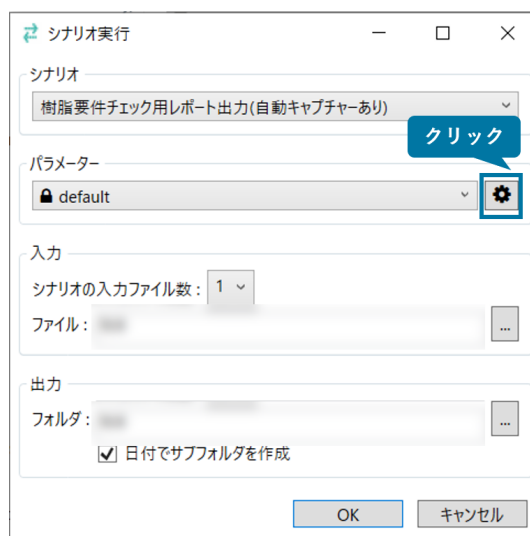
3. パラメーターを選択します。

- 。インストール時は「default」パラメーターのみ指定できます。
- 。システム管理者によって予めレポートパラメーターが設定されているシナリオフォルダーを指定している場合は、設定されたパラメーターがプルダウンリストに表示されます。



 鍵マークが付いているパラメーターは管理者によって設定されているため編集することができません。パラメーター設定ツールを使って別名で保存することで、目的に合わせて編集した個人用のパラメーターを使用することができます。

- 。選択したパラメーターの詳細を確認したい場合、またはパラメーターを変更したい場合は、 ギアボタンを押してパラメーター設定ツールを起動します。



- 。レポート出力設定について、説明します。

パラメーター名	内容	備考
言語設定	出力されるレポートの言語を指定します。 デフォルト値は「ja」（日本語）です。	「ja」を指定した場合は日本語、「en」を指定した場合は英語、「zh-CN」を指定した場合は、中国語（簡体字）のレポートが出力されます。
NG箇所出力	NG箇所のみを出力するか、すべての検証結果を出力するかを指定します。 デフォルト値はFALSEです。	TRUEの場合、NG箇所のみが出力されます。 FALSEの場合、すべての検証結果が出力されます。（適合／不適合／未確認）
コメント箇所出力	NG箇所に加え、コメントが含まれる、適合／未確認の検証結果を出力するかを指定します。 デフォルト値はFALSEです。 このパラメーターは「NG箇所出力」がTRUEになっている場合のみ有効です。	TRUEの場合、適合"○"の結果も、コメントが含まれていれば、その検証結果はレポート出力されます。 FALSEの場合、コメントが含まれる、適合／未確認の検証結果が出力されません。
キャプチャー箇所出力	NG箇所に加え、手動キャプチャーが含まれる、適合／未確認の検証結果を出力するかを指定します。 デフォルト値はFALSEです。 このパラメーターは「NG箇所出力」がTRUEになっている場合のみ有効です。	TRUEの場合、適合"○"の結果も、手動キャプチャーが含まれていれば、その検証結果はレポート出力されます。 FALSEの場合、手動キャプチャーが含まれる、適合／未確認の検証結果が出力されません。
使用コア数	自動キャプチャ時に使用するCPUのコア数を指定します。 デフォルト値は「1」です。 大きな数字を指定するとマシンのCPUを大幅に使用することがあります。 指定された数字がマシンのCPUのコア数を超えた場合でも、マシンの合計コア数の並列処理が行われます。	1を指定した場合、1つのコアを用いてレポート出力を行います。 2以上の整数を指定した場合、指定された数のコアを用いて並列にレポート出力処理を行います。処理速度が向上します。

None	レポート出力	レポートパラメーター	言語設定	ja
None	レポート出力	レポートパラメーター	NG箇所出力	FALSE
None	レポート出力	レポートパラメーター	コメント箇所出力	FALSE
None	レポート出力	レポートパラメーター	キャプチャー箇所出力	FALSE
None	レポート出力	レポートパラメーター	使用コア数	1

- ・ レポート出力パラメーター設定ツールの詳細については、「DFM_Studio_Quick_Start_Guide_ja.pdf」を参照ください。

- 出力先を指定します。
-  OKボタンを押します。レポート出力のシナリオが実行されます。
- シナリオ実行が完了したら、ASFALIS SmartLauncherの変換リストから該当ジョブを選択します。 フォルダーボタンを押すと、レポートが出力されたフォルダーが開きます。




本機能を実行するには、DFM Studio Reporterのライセンスが必要です。

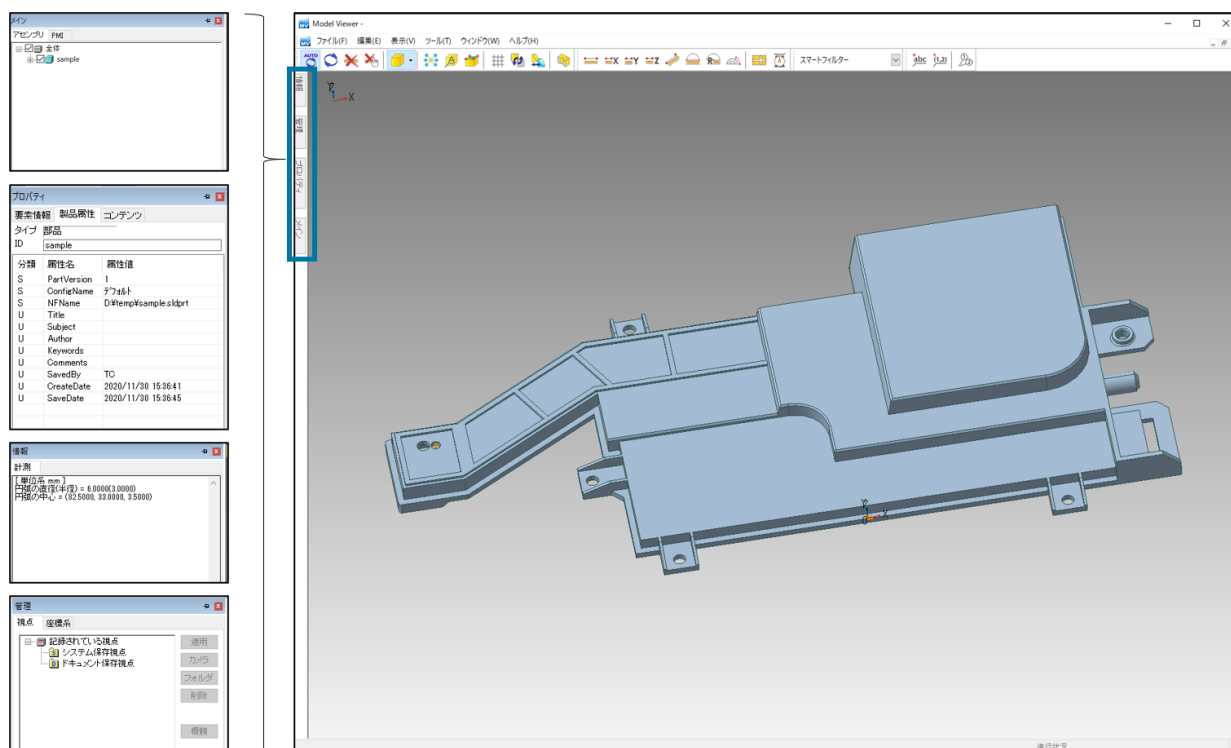
14. Model Viewer機能

Model Viewerの代表的な機能を紹介します。詳細はModel Viewerのヘルプをご参照ください。

14.1. パネル

複数のパネルでモデルの様々な情報を確認することができます。初期状態では各パネルは閉じています。

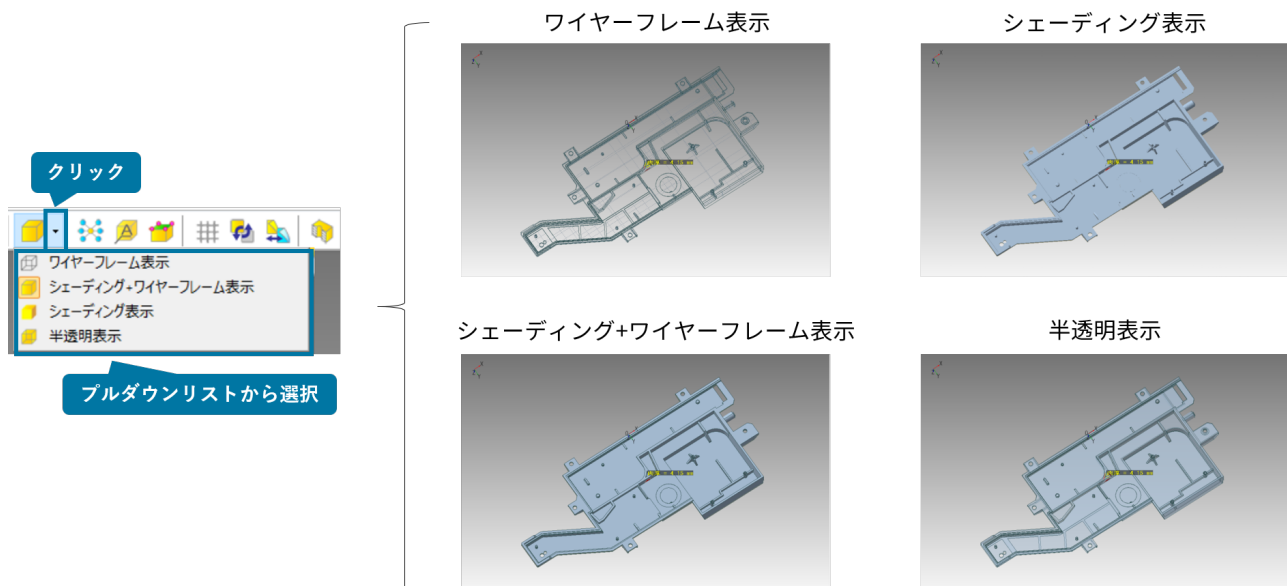
- 画面左の各パネル名上にマウスオーバーすると各パネルが自動で開きます。
-  ピンボタンを押すと、パネルを固定することができます。



名前	用途
メイン	アセンブリー構造を確認することができます。また各要素の表示、非表示を切り替えることなどことができます。
プロパティ	属性情報や座標系を確認することができます。
情報	Model Viewerの機能を使って計測した情報を確認することができます。
管理	ビュー情報を確認することができます。

14.2. 表示状態の変更

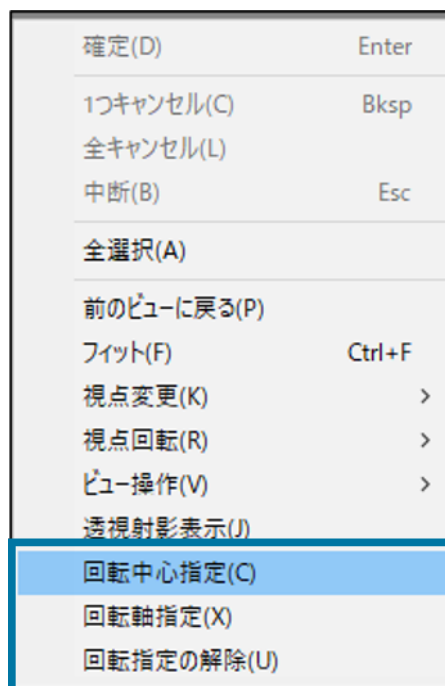
検出箇所が見えづらい場合は、表示状態を変更することで視認性を上げることができます。



14.3. 回転中心の指定

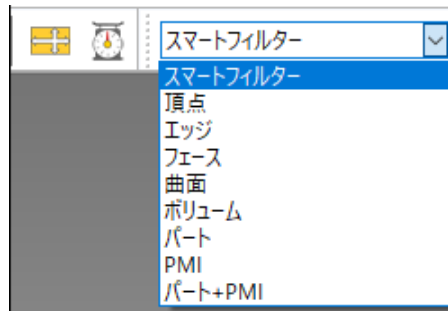
意図どおりにモデルの回転中心が定まらない場合は、回転中心を明示的に指定することでモデルを確認しやすくなる場合があります。

1. 3Dビュー上で右クリックしてコンテキストメニューを開き、「回転中心指定」を実行すると、任意の位置に回転中心を指定することができます。



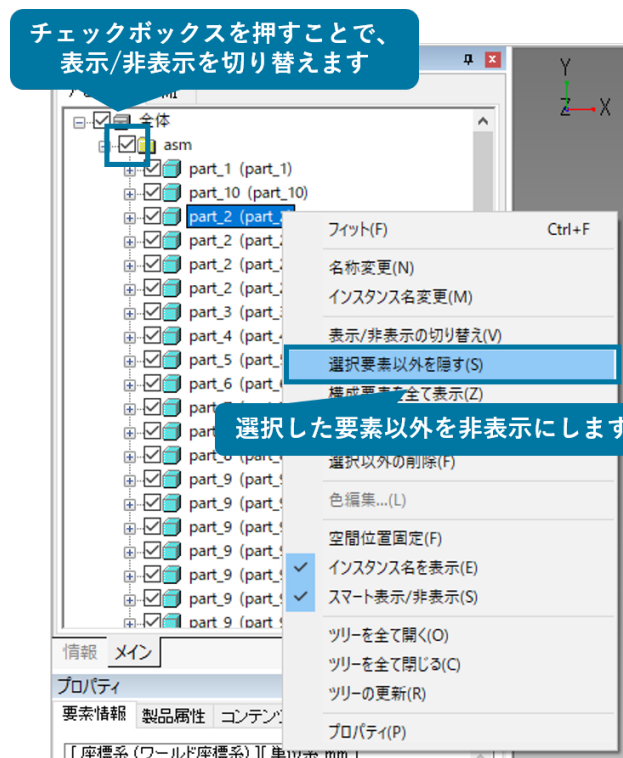
14.4. ピックフィルター

スマートフィルターモードがデフォルトとなっており、様々な要素をピックすることができます。ピックする要素の種類を制限したい場合は、ピックフィルターで要素を選択することができます。

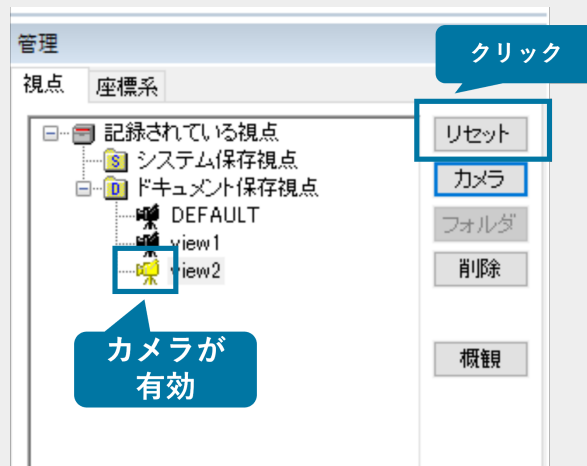


14.5. 表示/非表示切替

アセンブリモデルを読み込んでいる場合、不要なパートを非表示にすることで視認性を上げることができます。



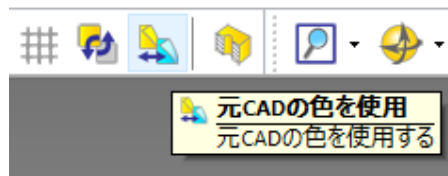
表示/非表示が変わらない場合は、メニューバーの [表示(V)] - [ツールバー(B)] - [管理]よりカメラの設定が有効になっている可能性があるのを確認してください。



14.6. 元CAD色表示

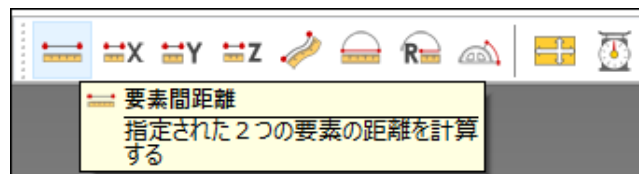
DFM Studioでは、判定結果を表すハイライト色を見やすくするため、元CADの色ではなく単一色でモデルが表示されます。

元CADの色を確認したい場合は、元CAD色表示メニューを実行します。



14.7. 距離計測

Model Viewerには様々な計測メニューが搭載されています。



14.8. 肉厚計測(パート全体)

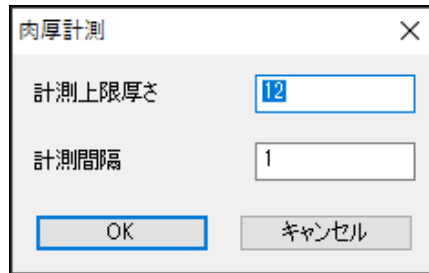
モデル全体の肉厚を計測し、カラーマップで表示することができます。

モデル全体の肉厚分布を確認したい場合に用います。

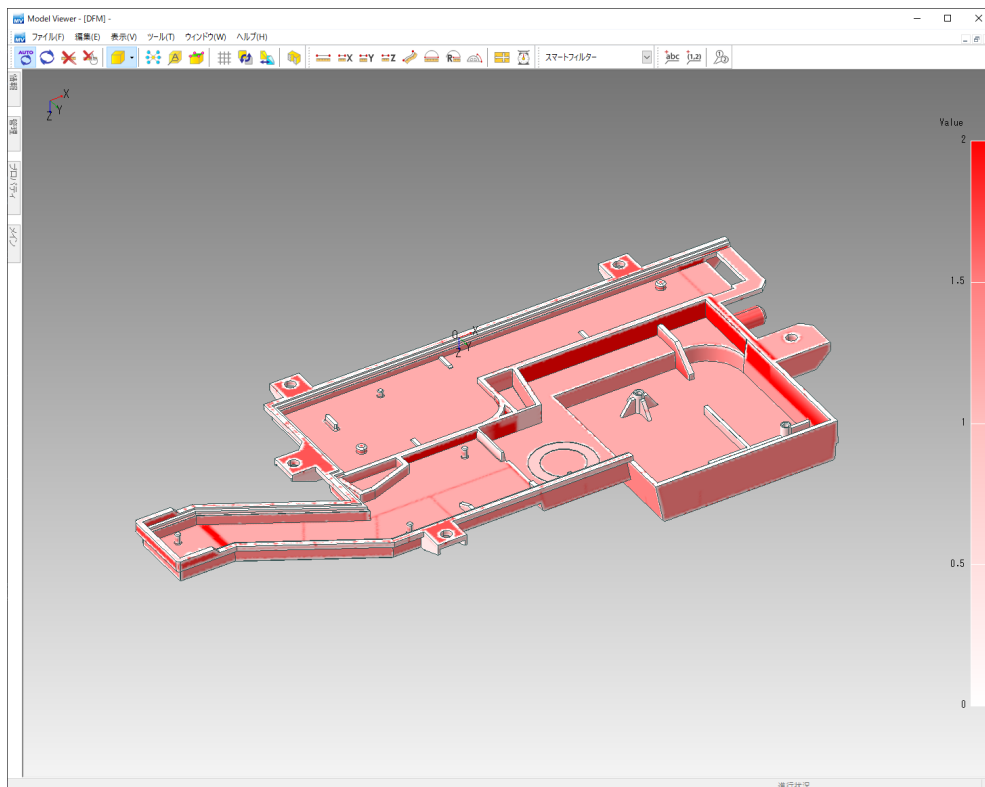
1. メニューバーの [ツール(T)] - [解析(A)] - [肉厚(K)] - [計測(指定パート)(E)] を選択します。
2. 計測対象パートの選択を促されますので、ビュー上からパートを選択するか、メインパネルから

パートを選択します。ただし、パートが1つしかない場合は自動でパートが選択されます。

3. 計測上限厚さと計測間隔を指定するダイアログが開きますので、値を入力し [OK] ボタンを押します。肉厚計測が開始されます。

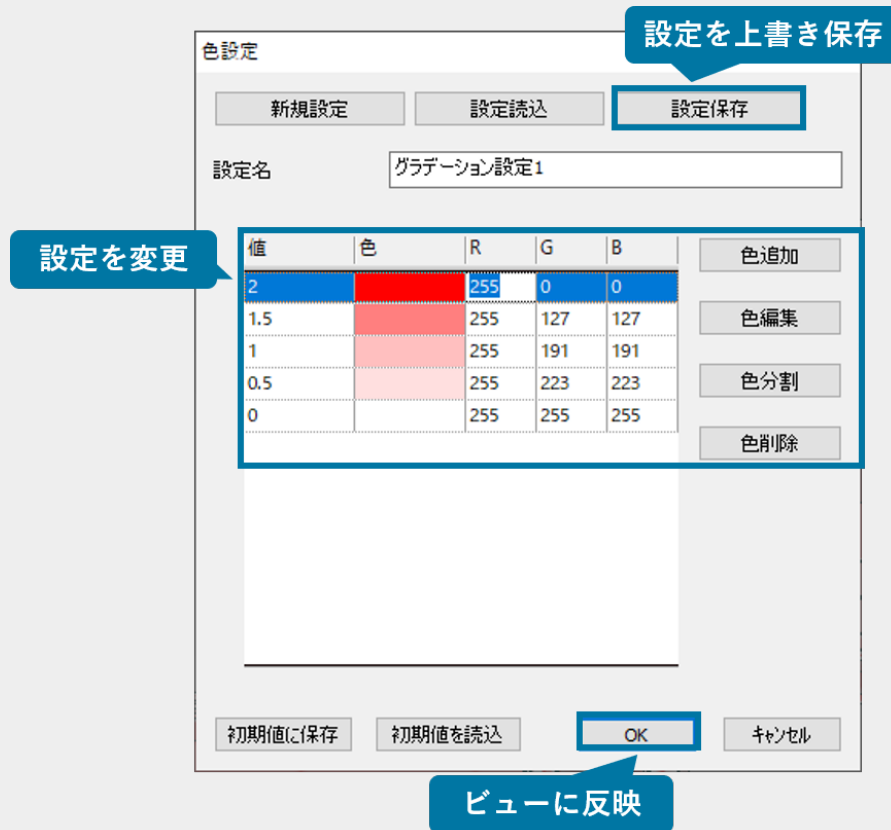


肉厚計測が完了すると、自動でコンター表示に切り替わります。

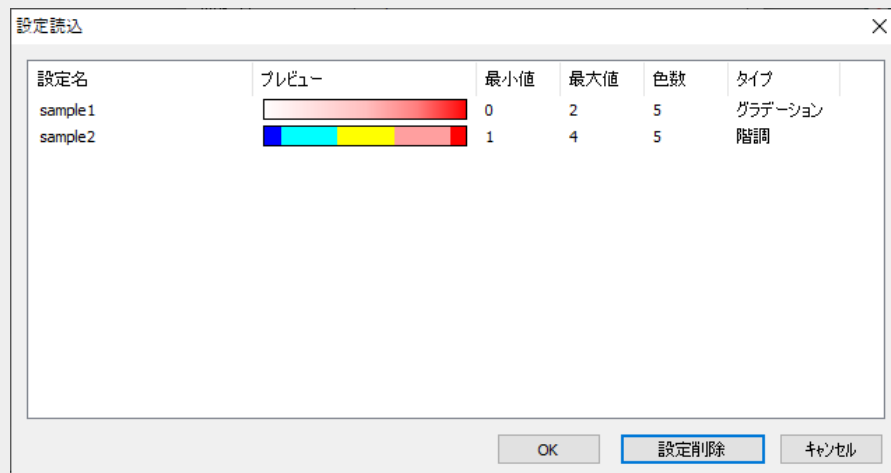


表示設定の閾値または色を変更することができます。

1. メニューバーの [ツール(T)] - [解析(A)] - [肉厚(K)] - [表示設定(S)] を選択します。
2. 色設定ダイアログで表示設定を編集して、[OK] ボタンを押して編集した内容を反映します。なお、編集した値はModel Viewerが起動している間のみ保持されます。
3. 編集した値を保存したい場合は、設定保存ボタンを押します。



4. 色設定を変更したい場合は、色設定ダイアログで設定読みボタンを押して設定読みダイアログを開きます。

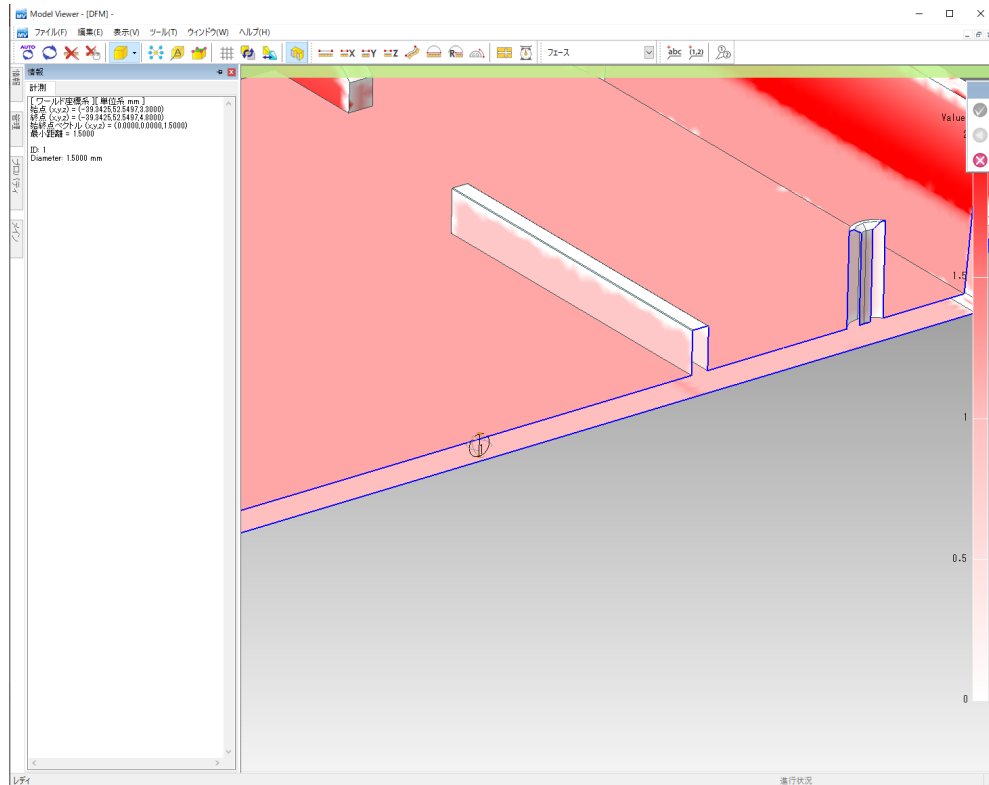


5. 色設定を選択して[OK] ボタンを押します。色設定ダイアログに選択した色設定が反映されます。

14.9. 肉厚計測 (個別指定)

指定した位置での肉厚を計測することができます。

1. メニューバーの [ツール(T)] - [解析(A)] - [肉厚(K)] - [計測(指定位置)(P)] を選択します。
2. フェース上の計測位置をピックします。ビュー上に計測位置を表す円弧が表示されると共に、情報パネルに計測値が表示されます。



14.10. 表示コンフィグ設定

Model Viewerでハイライト表示する時に、陰線を表示するか否かなどを設定できます。

1. [Model Viewer導入フォルダー]\bin.x64\Addon\AddonDfmViewer.ini を作成します。
2. 作成したAddonDfmViewer.ini の"DfmViewer"セクションに所定のパラメーターを記述します。
指定することができる内容は以下になります。

キー	内容	備考
ShowHidingElement	陰線表示をするか否かを設定します。デフォルトはfalseです。	true: 陰線を表示する
HiddenLineColorRatePerFace	陰線の色合いを整数値で指定します。	0:黒---100:フェース色と同じ
DrawLineComposingPolygonMesh	表示メッシュ中の線の表示するか否かを設定します。デフォルトはtrueです。	false: 表示メッシュ中の線を表示しない
HiddenLineWeightOfFace	陰線の太さを0から5の整数値で指定します。	0:細い---5:太い
HiddenLineColorOfPolygonMesh	表示メッシュの陰線表示時の色を次の値で指定します。	0:黒 1:赤 2:緑 3:青 4:黄 7:白

下記のような形で指定することができます。

```
[DfmViewer]
ShowHidingElement=true
HiddenLineColorRatePerFace=80
DrawLineComposingPolygonMesh=true
HiddenLineWeightOfFace=3
HiddenLineColorOfPolygonMesh=7
```

15. Config設定

Inspectorでは、以下のファイルでユーザーコンフィグを設定することができます。

1. 後述するようにテキストエディターで編集します。ファイルがない場合は新規作成します。

```
%APPDATA%\ELYSIUM\DFM Studio Inspector\config.toml
```

コンフィグファイルで指定することができる内容の一部は以下になります。

キー	内容	備考
modelViewerAutoViewerStart	Inspector起動時にModel Viewerを自動起動するかを確認します。	true/false/confirm のいずれかを指定します。 デフォルト値は"confirm"です。trueの場合、Model Viewerが自動的に起動します。 falseの場合、Model Viewerが起動しません。 confirmの場合、毎回Model Viewerの起動確認を行います。

コンフィグ設定のサンプルは下記の図の通りです。

- Model Viewerを自動起動したい場合

```
modelViewerAutoViewerStart = true
```

- 起動時のInspectorの拡大率を115%に指定したい場合

```
zoomFactor = 1.15
```



値を指定する場合、「=」の前後に半角スペースを挿入してください。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの
行為をすることは禁じられています。